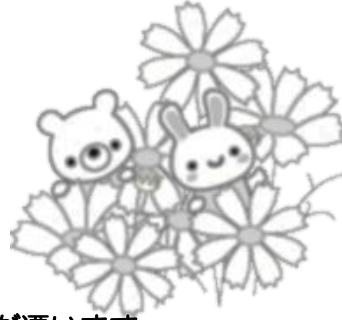




開山忌 10月30日(金)

この山に大智寺を開かれた
和尚様の祥月命日法要



高く晴れ渡った秋空の下、キンモクセイの香りが漂います。
今年は涼しかったためか、彼岸花も萩も栗も早め早めに終わっていき
新米や里芋の収穫の音が、笑顔とともに届いてきます。
皆様いかがお過ごしですか。

お寺では10月に入ると、少しずつ開山忌の準備が始まります。
開山忌は大智寺にとって一番大切な法要です。

各寺はそれぞれの因縁によって建てられており
それぞれ由緒を持っています。
お寺の創建にあたり財を寄せた人を「開基(かいき)」
仏法を広めるために、お寺を開き住した僧侶を
「開山(かいさん)」といいます。
お寺の初代住職である開山様の功績をたたえ
そのご恩に報いることを誓うため、
開山様の祥月命日に行う法要を「開山忌」といいます。



ちなみに大智寺のご本山 妙心寺は、花園法皇様がご自分の離宮をお寺に改められ
「このお寺を仏道修行の場としたい」との勅願を出し、開基様になられました。
そしてお寺の指導者として招かれた無相大師様が、開山様となられました。



妙心寺が1337年に創建された後、
無相大師様の流派は四派に分かれ
全国約3400ヶ寺に広がりました。
世の中は、室町時代そして応仁の乱、
戦国時代の始まりという流れの中で
1500年に創建されたのが大智寺です。

無相大師様の流派は、
龍泉派・東海派・靈雲派・聖澤派の四派に分かれ、
それぞれが妙心寺の境内に龍泉庵・東海庵・靈雲院・聖澤院という塔頭を構えています。
これら「四派四本庵」が整うことで、妙心寺の運営体制が確立したと言われています。
この四派の中で、ここ美濃尾張に広がったのが「東海派」です。
東海派の開祖は、岐阜殿町にある瑞龍寺の開山様(悟溪宗頓禅師)です。
そのため、妙心寺塔頭の東海庵でも悟溪禅師は開山様として祀られています。
この悟溪禅師のもとで、特に修行を積んだ弟子が8名おり
「東海の八哲」と言われておりました。
その8哲の一人が、大智寺の開山様である玉浦宗珉禅師(ぎょくほそうみん)でした。

北野城主鷲見美作守保重公が自分の菩提寺を建てようと発願し
この地に玉浦宗珉禅師を招いてから515年経ちます。
苦しい時代も、良き時代も経て今日まで
脈々と仏法の灯火は受け継がれています。

開山忌当日は、20名近い和尚様を
お招きし、開山様の御教えに感謝し
そのご恩に対し、手を合わせます。



大智寺だより

平成27年神無月
Vol.68

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話:058-229-1532

《Mail》
hybsr245@ybb.ne.jp
《ホームページ》

<http://www.daichi-ji.com>

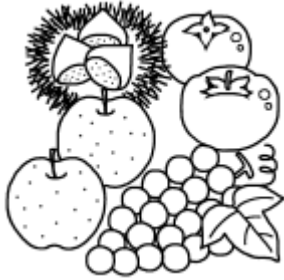
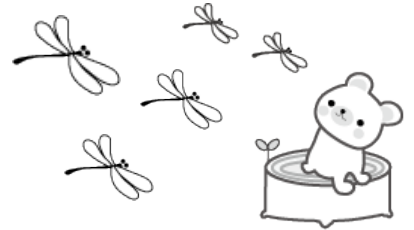
当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

9月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

お彼岸にはたくさんの方のお参り ありがとうございました

今年は九月初めの台風の影響か、肌寒くなるのが早く
大智寺の彼岸花も例年よりかなり早く咲き始めました。
お寺のホームページを通じて、皆様に早めにお越しいただけるよう
お伝えしていたためか、満開の時期にはいつも通り
多くの方に楽しんでいただきました。



9月14日には、ラジオ（ぎふちゃん）「お茶の間ステーション2時6時」にて
住職が生放送で出演させていただき、彼岸花のお話を致しました。

9月18日には、テレビ（ぎふちゃん）「ニュースステーション！」にて
お寺の彼岸花の様子を流していただきました。

9月25日には、読売新聞の朝刊にて彼岸花の景色をご紹介いただきました。
マスメディアの方々の丁寧な取材のおかげで、
彼岸花をきっかけに、お彼岸の時期にお寺参りくださる方が増えてきました。
これを機に、お寺や仏教に触れ親しんでいただければと思います。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc
わからないこと 質問帳 ⑱



「お寺でお葬式をするには、どうしたらいいの？」

例年より過ごしやすく感じられた9月中旬、お寺にてお通夜お葬式が営まれました。
300名近い会葬者をお迎えする、少し大きめの葬儀式でしたが
よいお天気にも恵まれ、滞りなくお寺から亡き方をお見送りすることができました。

葬儀式が終わった後、檀家様から
「俺もお寺でお葬式を挙げられたら、と思うけどいいの？」
とのお話をたくさんいただきました。

お寺はお檀家様にご寄付をいただき、修繕し整備を進めてきました。
お檀家様にお使いいただき、会場としてお役に立てていただければ、
こんな本望なことはありません。

お寺としては、お檀家様にどんどんご活用いただければと考えております。

お寺では、120名程の会葬者であれば全員本堂にお入りいただけます。
本堂内では椅子（40脚）座布団（80枚）の用意があります。

また、通夜ぶるまい、お斎、精進あげの食事も
お寺の中で行っていただくことができます。

本堂の西の間（いつもお茶を飲んでいただくお部屋）は、
夜伽の際 親族の方にお休みいただくお部屋となります。



過去大智寺にて設営したことがある葬儀社様は、
「JAぎふ」「岐阜葬祭」「プラン・フルールゆう」「誠心」です。
その他の葬儀社様であっても、きちんと打ち合わせをさせていただき
設営していただくことができます。

また、食事は葬儀社様に頼まれる方もいらっしゃいますが
ご自身で「藤よし」「バス」「河合寿司」など好きなお食事処に
発注される方もいます。

より詳しいことは、お寺までご相談ください。



日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』

お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

18

「春は萬^{よるす たね ま}の種を蒔き 秋の稔^{みのり}りを待つのみか」

さて、前回までは仏法の教えに出会うことのありがたさ
そして出会った機会をつかみ、出離を求める（迷いの道から離れ自由になること）お話でした。
今回からは、そのためにどうしたらいいのか具体的なお話へと移っていきます。

中国の唐の時代、雲門（うんもん）という和尚様がいました。ある時、弟子達に問いました。
「これまでの過去は一切問わない。これからどのような気持ちで修行に励むつもりか。ひと言で言え！」
即答できる弟子は一人もいません。

すると、すかさず雲門和尚様「日々是好日（にちにちこれこうにち）」と一喝。
「日々是好日」 読んで字のごとく、「明日がある、次がある」という気持ちを消し去り
一日一日、今この一瞬を真剣に生き切る禅の姿勢を表しており、
「今」を過ごしている自分の命は「この瞬間が最初で最後だ」という覚悟を説いています。

春蒔いた種が秋に稔るのを待つように、時間が解決してくれるのを待っているだけでいいのか？
仏法の教えに出会っても 明日を前提に生きるようでは、出離は求められないのではないのか？
時間を使い、命を使い、「今」を全身全霊で生きているか？
この一節はそう私達に問いかけてきます。

今更のつひじ

日増しに秋も深まる中、おとしお檀家様に
いただいた桃色の秋明菊も、ようやく力を
付けたくさんの花を咲かせています。菊薫る
好季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて先月20日、日本熊森協会の方50名程が
大ヒノキの根元に炭をまく作業をしてくださ
いました。炭は、地下の微生物の働きを活性
化させたり、水分を調湿する効果があるそう
です。樹勢の弱ってきた大ヒノキを見かねて、
汗を流して土壌改良に取り組んでくださり、
感謝の言葉もあります。

炭というと昔は暖をとる燃料として使われ
ました。一休禅師の逸話が思い出されます。
寺中の燃料を使い果たしてもなお凍え死ん
でしまいそうなる晩、僧侶達は肩を寄せ合
い震えていました。すると、こともあろうに
一休禅師は大切な寺宝である仏像を庭先で燃
やし始めました。ほかの僧侶達は驚いて止め
ました。問に合いません。一休禅師は、みる
みる灰になっていく仏像を小枝でつついて
「仏様の骨が見当たらない」と一言。

「これだけは守らなければ」「絶対これは宝」という心も、人の生死が関わる大事な時には、さらりと柔軟に捨ててしまえる自由さを率直に教えられる。大切な大ヒノキも、いざとなれば切り倒すことができるのか心に問うと身がすくみ、一休禅師に笑われるような心地です。自由に形を変えて流れていく秋の雲を仰ぎ、禅の境地の遠さを感じるこの頃です。

シリーズ 北野のおばあちゃんの味

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

食欲の秋到来 キノコいろいろご飯

- ① 油揚げはフライパンで香ばしく両面焼き、さいの目に切る。
- ② マイタケ、しめじ、椎茸、エリンギは切ってフライパンでじっくり炒める。
- ③ お米3合に薄口しょうゆ小さじ2、酒大さじ2、塩少々、出汁を入れていつも通り炊く。
- ④ 炊きあがったら、よくかき混ぜて出来上がり。

キノコは2時間くらい天日干しにすると、味が凝縮しておいしくなるよ。
キノコをそのまま炊き込むより、炒めた方がなんかコクが出るみたいだよ。
マツタケみたいな高価なもんは食べんけど、十分うちの秋の味覚になっとるよ。





～ うちの宗教って、どんなやつけ？ ～

第二十九回：お寺の使命

大智寺の宗門を、やさしく簡単に
おわかりいただければ嬉しい、そんなお話



臨済宗妙心寺派の「宗制」によると、
「寺院とは、堂宇をそろえ本尊を安置し、僧侶と檀信徒を包括して
教義の宣布・儀式の執行・社会教化に必要な公益事業を行う」とあります。

お寺には、仏様の教えを広く伝え布教活動に専念し、
人々の迷いを救う努力と、明るく平和な社会を築く努力を惜しんではならない使命があります。

ある人は、坐禅や写経をする「修行道場」として活用され

ある人は、禅の教えを聞く「教化道場」として活用され

ある人は、家庭の平穩無事を祈る「礼仏道場」として活用され

ある人は、葬祭儀式や法要儀式を行う「葬祭道場」として活用されます。

お寺は檀家様 皆様のお場です。

みんなで作り上げ、みんなで活用し、みんなでよりよく工夫し、
本尊様をはじめご先祖様をこれからもずっとお守りしていく場です。

一般的に、共に暮らす夫婦親子を「家庭」と言いますが

お寺の家庭を「寺庭（じてい）」と言います。

寺庭は、親子である前に師弟であり、夫である前に師であるという法縁で結ばれています。

寺庭一同は、寺門の発展興隆と護持に努める使命を持っています。

仏様の教えの下、お寺と檀家様と寺庭が一体となることで、お寺は使命を全うできるのです。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

10月25日（日） 一回 500円
（朝8時～9時）（内 300円は義援金）
要申込

9月写経会 備忘録

早朝少し雨が降りましたが、朝8時には
すっかり晴れた日曜日。今回は、般若心経
「無有恐怖」の部分のお話。落語「ねずみ」
を楽しみつつ、私達の持つ罣礙こそが、目を
くらませ恐怖を感じさせているのではない
かと考えてみました。自分を落語内のねずみ
に重ねてみると、また見方が変わります。
今日は俵屋吉富の三種の「雲龍」に舌鼓打ち
つつ、ホッと一服しました。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む 家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
（墓石代金含む）

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りの方が
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上 ご来山ください。